

令和元年度第1回白河市総合教育会議

議事録

1 期 日 令和2年1月21日(火)

2 場 所 白河市役所 3階 第2応接室

3 開 会 午後2時

4 出席者

(1) 構成員

職名		氏名
市 長		鈴木 和夫
教育委員会	教 育 長	芳賀 祐司
	教育長職務代理者	金子 英昭
	委 員	北條 睦子
	委 員	沼田 鮎美
	委 員	瀧澤 学

(2) 市職員

職名	氏名
市長公室長	藤田 光徳
市長公室参事兼企画政策課長	今村 雅隆
市長公室企画政策課課長補佐兼企画政策係長	渡邊 正俊
市長公室企画政策課企画政策係主事	末永 純一
教育委員会事務局理事兼教育次長	菊地 浩明
教育委員会事務局参事兼教育総務課長	水野谷 茂
教育委員会事務局教育総務課課長補佐兼総務係長	宮尾 宏樹
教育委員会事務局学校教育課長	根本 秀一
教育委員会事務局学校教育課主幹兼課長補佐兼指導係長	加藤 正行

5 議 事

(1) 市教育大綱に基づく「自ら学び、自らを高める」取り組みについて

- ・ 教師が子どもたちと向き合う時間の確保のために

(2) その他

6 閉 会 午後3時

1. 開会

- 事務局（司会） 令和元年度第1回白河市総合教育会議を開催する。
原則通り会議を公開とし、傍聴を許可する。

2. 議事（1）市教育大綱に基づく「自ら学び、自らを高める」取り組みについて

- ・ 教師が子どもたちと向き合う時間の確保のために

- 事務局（司会） 白河市総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により会議の議長は市長とする。

- 鈴木市長 議事（1）の「教師が子どもたちと向き合う時間の確保のために」について、事務局より説明を求めます。

- 事務局 「教師が子どもたちと向き合う時間の確保」となっていますが、言い方を変えると多忙化の解消、超過勤務時間の縮減ということになります。そのような状況を踏まえて説明いたします。

まず新学習指導要領と子どもを取り巻く現状について3点まとめてお話しいたします。

1つ目は、学習指導要領に求められている「生きる力」の育成についてです。これまでの教え込み型の授業から、自分で課題を見つけ、自分で考えて、最後は外化（表現）するという力を子ども達に身につけてもらおうとしています。

2つ目としては、特別な支援を要する子どもが増加している事に関してです。これまで教員の言うことを素直に聞く子どもが多く、今もそのような子どもたちが多くの中で、個別の指導をしないと学力が身につかない、一緒に生活することができない子どもが増加しているという現状があります。

3つ目としては、地域の教育力の低下、核家族化、貧困、子育てに困難を抱える保護者の増加、問題を抱える子どもの増加です。世間一般に社会問題と言えるのかもしれませんが、支えがないと子育てが難しい状況が出てきています。例えば十分に家庭で愛情を注いでもらえず、安心して学校生活を送れないという子どもたちも増えています。

このように、教師には、昔は必要とされていなかった新たな課題の対応のための指導力が、現在必要とされています。

超過勤務時間の昨年度との比較についてですが、今年度1学期は、昨年度を下回って推移しています。2学期については、夏季休業の縮減等が原因と考えておりますが、小学校で約1時間、中学校で約2時間超過勤務時間が増加しています。平均の欄を見ていただくと、小学校は微減、中学校は微増となっております。あまり変えることができないでいます。ただ、月の超過勤務時間が80時間を越える職員の数はだんだんと減ってきております。これについては、月に

1回校長会を開き、校長先生方に現状を考えていただき、超過勤務時間が80時間を越える教員をまず減らしていくということを共有してきた成果ではないかと考えております。

続いては課題懸案事項についてです。県では目標として、多忙化解消アクションプランを設定しています。市においても県の多忙化解消アクションプランを受けて、令和2年度までに平成29年度比で超過勤務時間を年10%ずつ、最終的に3割減らすという目標を掲げて取り組んでいます。

しかし、2年目に入った今年で2割減らすという目標の実現には至っていないという状況です。

市の取組についてですが、市として部活動における休養日や練習時間の上限を設定しています。これはスポーツ庁から出されているガイドラインを基に平成30年度から取り組んでいます。主に平日週1回、土日どちらかは休養日にして、平日は練習時間を2時間以内、週休日は3時間以内とすることとしております。

続いて送付文書の削減、もしくは送り方の工夫です。県から来る文書が非常に多いことから、市教育委員会では、複数の添付ファイルを1つのPDFにまとめて送付するなど、学校の負担を減らす工夫を図っております。

あわせて提出文書の簡易化、出席簿・保健日誌の電子化、教育課程年間指導計画作成ソフトの導入などに取り組んでいます。

また、教員向け教育講演会の縮減、校長会プロジェクトチームによる退勤時刻の上限の設定、部活動指導員の配置の拡充などに取り組んできました。

その結果、30年度の超過勤務時間は、29年度比で中学校は-8%となっておりますが、その後はなかなか思うように削減が進んでおりません。

今後の対応方針についてですが、一つ目は人員の配置であります。中学校における部活動指導員の増員、小学校における教科担任制の導入、支援員・スクールカウンセラーを継続的に配置してまいりたいと考えております。

2つ目は、出勤時刻の適正化の検討、部活動の練習時間の上限の順守、部活動の大会の参加回数制限の検討であります。また、長期休業縮減による6校時の削減については、今年から取り組んでいるところです。

最後は校務の合理化です。県で統合型の校務支援システムを導入していますので、市でも導入できないか検討しております。ICT機器の活用を図ることで超過勤務時間を削減できるものと考えております。

○市長 教員多忙化の解消を積極的に図ろうということで取り組みの実績、問題点が挙がりましたが、今の説明についての質問、あるいは教員の多忙化の解消に向けて、皆様のご意見を伺います。

○北條委員 資料を拝見しますと、ずいぶん市でも真剣な取り組みをされてい

ると思います。先生の超過勤務がなかなか改善されないのは、地域の保護者の期待がすごく高く、それに応えようと先生方が一生懸命がんばりすぎて、ご自身の生活の時間を削ってでも対応してしまうのが問題ではないかと考えております。

例えば、解消とまではいきませんが婦人会では、15、6年前から小学校の家庭科の運針やミシンの授業を年間1、2回、学校に出向いて子どもたちに教えています。

地域の人たちは、学校のためにお役に立ちたいと常に思っていますので、学校から地域に何でもおっしゃっていただければ支援できることがあると思います。なかなか一般の人たちですと学校の敷居が高く感じますので、もし学校から要請がございましたら自分のできる範囲でご支援できると思います。

○**市長** 地域と学校の関係が弱くなっているという問題を抱えていると思います。北條委員の活動は、先生の負担軽減につながると同時に、地域との結びつきを強くするものだと思います。とても大事なことです。

○**沼田委員** 保護者が求めていることに対して応えようとする気持ちが大きくなってきているのではないかと思います。家庭でできないことを学校に押し付けてしまっているところも少し見受けられるのではないかと感じます。

保護者との関わりの中で、学校にはPTAという組織がありますが、そのPTAのあり方自体を根本的に考え直すことから、先生の負担を軽減できる可能性もあるのではないかと思います。

○**市長** 地域のコミュニティや人間関係が弱くなってきているため、家庭や地域で教えるべきことを、自然に教えられない。核家族化も進んでいるので両親が仕事で忙しいと、押し付けているわけではないがどうしても学校に頼らざるを得ないこともあると思います。

○**瀧澤委員** 中学校の指導の中で部活動は大変なウエイトをしめているという統計が出ています。自分が子どもの時、小学校では学校の先生がクラブ活動、スポーツ少年団を指導していました。徐々にPTAの父兄が関わり、野球やソフトについては専門的な知識を持つ人が入って率先的に指導していると感じます。

部活動を先生に期待して、結果を出していただくのもいいですが、例えば父兄がもっと上手く関わり、または外部のスポーツトレーナーなどが放課後に指導できるような体制をとることで、中学校の先生の負担が少しでも軽くなるのではないかと考えます。

○**市長** 今年度から中央中に1人外部人材を活用しています。1年経っていないので効果等はこれから検証します。部活動は先生だけでなく、送迎などで親御さんにも負担がかかっています。

○**金子委員** 様々な社会や家庭のひずみを学校に任せているという現状はあります。資料の中にも教師の新たな課題への対応とありますが、どういう課題が出てきているのか、それはきっといくつかのひずみであり、それを学校が抱えています。では学校がやらなければ誰がやるのでしょうか。成長期のお子さんを預かるのは学校なので、地域社会もなかなかできないですし、家庭もできないなら学校ということになってしまいます。

学校の流れを朝から夕方まで考えると、朝の学活から帰りの学活まで、入る余地のないタイムテーブルになっています。無駄を省けるような流れはありません。子どもが帰れば、小学校の先生はそれぞれの教室で準備をします。中学校はそこから部活動なので、放課後の時間をどう使うかは重要だと思います。

土日も同じように部活動があると行かなければいけない。放課後や土日祝日の時間をどうするかというところが大事なかなと思います。

人員の確保や退勤出勤時間の取り組みは、制度上の事例です。しかし、原因の深い根はもっと別なところにあると感じます。

○**教育長** 私も教員なりたての頃、学校は地域に応えるもの、教師は保護者の要望に応えるもの、それを精一杯がんばる先生が良い先生、そしてそういう先生が一生懸命やる学校が良い学校という形で、どんどん学校が担わなければならない業務が増えていき、今があるのは確かです。

そういう文化がずっと今まで続いていて、そして今度は働き方改革で業務を削減しようとしています。では、今まで学校が担ってきたものをどこが担うのかと考えると受け皿がありません。その文化を地域は地域に、家庭は家庭に戻していかなければならない。今までやってきたことを変えなければいけない。しかし、急には変えられない。それを徐々に変えているのが現状です。変えるには時間がかかると思います。

昔は中学校の部活動の大きい大会は、中体連や地区大会ぐらいでした。ところが、それだけでは子ども達の要求に応えられないので細かい大会がすごく増えています。それも勝敗を競うものなので子ども達は勝ちたい、保護者も応援したい、そうするとどんどん大会に出るのは確かです。

春先は6月の中体連に向けて、例えば野球はこの地区では細かい大会が沢山あります。そのため、保護者と話し合い、上限を決めて、小さな大会を減らしていくような形で話をしていかなければならないのではないかと考えているところです。

前回、市長より、何が原因でこうなっているのか実態をつかむように言われ

ておりました。資料にあるように福島県の去年6月の調査において中学校で勤務時間外に最も時間を割いたのが部活動です。そのため、中学校はやはり部活動をどうしていくかが大事だと思います。

部活動に指導員を配置していますが、なかなか教員に代わる指導員を探すのは難しいですし、働きながら放課後に指導をするのも難しいです。そのため、平日は、部活動を6時半以降行わず、子どもを早めに帰して、先生も早く仕事をして帰ります。仮に土曜日練習試合をやるとなると、それだけで時間外が8時間になり、土日が大会であればそれだけで16時間になってしまいます。ですので、中学校では部活動が大きな問題なのかなと思います。

小学校は、朝、子どもたちと出会う、放課後子どもたちを帰して4時ちょっと前くらいになります。来年から授業時数が多くなり小学校3年生から中学校3年生まで総時数が同じになります。小学校は6校時の日がとても多いため、先生は6校時の授業が終わってから、当然授業の準備をします。中学校では授業をしていない空き時間があるので事務処理や授業の準備もある程度できます。小学校の先生は、子どもが帰ってからでないとそれができません。次の日の準備は絶対必要なもので、その時間を確保しなければいけません。先生の勤務時間の中で授業準備のための時間を位置づけることができません。

その時間を確保するために、今年度みさか小学校でスタンダード推進事業として取り組んでいるのが教科担任制です。例えば、社会の授業を一人の先生が他クラスも受け持つことにより、社会の授業の準備をしなくていい先生が出来ます。そうすることで授業の準備時間が短くなります。限られた時間をいかに有効な時間としていくか、工夫をしていかなければいけません。文科省では、加配が遅れていますが専科教員の配置を進めています。来年度は文科省の予算では専科教員を2,200人で考えていますが、福島県に何人配置になるのかは分かりません。そういう状況がありますが、現在白河市では教科担任制度で授業を交換したり、担任外の先生と上手く調整したりしながら、勤務時間の中でいろいろな事務処理をできるように、また見出せるようにと模索しているところです。

○**市長** 本当に難しい問題だと思います。時間は24時間しかないわけですし、削れるものはなかなかありません。中学校は部活動に対する対応が一番大きいでしょう。小学校は成績処理が大きいです。成績処理は、授業が終わってから行うんですか。

○**教育長** そうです。成績処理は、丸付けなどです。そのデータをまとめたりというのが勤務時間内でできないという状況になっています。

また、子ども達も忙しくなっています。昔は、放課後校庭で子ども達も遊んだりしていましたが、今はすぐに帰っています。

○市長 子どもと先生という狭い世界になっています。スマホなどの普及でひとりの人間が付き合う範囲も狭くなっています。私が小さい頃は、曾祖母からいろいろな話を聞き、大きく影響を受けました。学校以上の学びがあったかもしれませぬ。今は、全て学校頼みになっていて、先生も耐え切れなくなっています。何でも学校に苦情などが行き、過剰です。市職員によく言いますが、追いかけてらる仕事でいい仕事はできません。仕事を追いかけていくんです。追いかけてらるのは苦しいですから。教育も技術的なものだけでなく、生きる大切さなど精神的なものも大切です。

先生方の問題だけでなく、社会のあり方も変わってきています。先生のシステムは変わらないですから、社会の仕組みの問題が絡んでいると思います。

○金子委員 失礼な言い方にはなってしまうんですが、親も未成熟かなと感じます。教師も若返ってきておりますが、昔は人生や経験を語る機会や聞く機会がありました。

教育がテクニカルになっているのも否めない事実です。商業主義というか、金銭的なものに結びつきやすくなっています。

○市長 本来、教育と経済は無縁なものですが、結果的に結びついてしまっています。昔は、企業が人を育てていました。現在、企業は、優秀な子どもが入れば企業は儲かると考え、即戦力を求めています。成果主義になっているため、長期的に見られなくなっています。教育は生きていく力を身につけることであり、決して企業のためではありません。逆を言えば、そういう力を身につける子どもは、企業や行政に入っても自然と力が付きます。

世界に飛び出すと多くの知識を身につけることができますが、本当に生きていくために必要なものは何なのだろうか、身につけられるのだろうかと思います。

また、先生だけでなく、子どもも忙しすぎます。親も子どもに相対して教育する時間が取りにくいです。子どもは誰にどうやって生きる力を学んでいくのでしょうか。

教員の超過勤務時間を3割減らすのもかなり難しいと感じます。システムを根本的にかなり変えないといけません。量的な問題でなく、質の問題だと思います。

継続的に議題にし、次回も話をしたいと思います。

3. その他

○事務局（司会） 次第3 その他

（特になし）

4. 閉会

○事務局（司会）

令和元年度第1回白河市総合教育会議を閉会。